

年より私が会長職を引き継ぎました。私自身は、リハ医ではなく、公衆衛生と精神保健を専門とする医師であり、兵庫県行政で仕事を始めてまだ5年目ですので、澤村氏のようなカリスマ的リーダーにはなれません。そのため今後は、協議会に参加の各機関や当事者団体の代表者の方々に、主体的に参加いただくことで、県内のリハネットワークを形作ろうと考えています。またHPも開設しましたが、情報量は不十分で県民にリハへの理解を得るためには、まだまだこれからです。

<http://www.hwc.or.jp/reha-kyou/index.htm>

活動として、年に1回は県リハケア大会を開催しています。今年度は平成26年3月2日に兵庫県介護支援専門員(ケアマネ)協会が担当をして「多職種協働によるチームケアの推進～リハ

ビリテーションの可能性～」をテーマに行われる予定です。全国的には、超高齢社会を目前にして、高齢者施策としての「地域包括ケア」が熱心に議論されていますが、残念ながら障害者は、この構想からは抜け落ちています。協議会では、このような高齢者と障害者を分けて地域作りを考えるのではなく、統合された形の地域づくりを目指した考え方を具体的活動とともに、兵庫県から全国に発信できればと考えております。また、当協議会では、専門職と当事者が対等に話し合い、同じ目線で地域リハビリテーションを語ることが可能です。このような貴重な場を継続させるためにも、県内外の多くのリハ医の方々に、応援いただけることを願っております。

**新幹事の抱負** 新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。  
 (平成24年度 第2号(通巻第17号)に掲載できなかった分です。分割掲載となりましたことにお詫びいたします。順不同です。)

**幸田 剣 和歌山県立医科大学リハビリテーション科**



私はリハ専門医を目指して初期研修を受け、研修施設でリハ医として研鑽をつみました。その後、和歌山県立医科大学で田島文博教授のご指導を受け、現在は日本リハ医学会指導責任者として後進の指導と専門医の育成を担当しております。臨床では、“患者第一主義”と“Whole body(全身)の医療”の教念に従い、徹底した急性期リハの推進に努めております。痙縮に対するボトックス治療や手術治療、脊損者を対象とした超音波での褥瘡の早期診断や座圧測定にも力を入れています。研究では、ヒトを対象とした自律神経調節や運動と免疫、急性期リハの有用性や安全性を明らかにするための循環応答の研究を行い、ISPRMをはじめ、国際学会、全国学会で発表しております。社会的活動としては、和歌山県の高次脳機能障害者支援普及事業の委員を務め、学会活動では第7回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会実行委員、第46回日本脊髄障害医学会幹事を務めました。

経験は十分とはいえませんが、近畿地方会の先生方のご指導を賜り、幹事の一人としてリハビリ医療の発展、専門医の育成や研究活動の推進に努めたいと考えております。何卒、今後とも一層のご指導ご鞭撻の程賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

**宮内 義純 奈良県総合リハビリテーションセンター**



私は、骨軟部腫瘍を専門領域として活動を続けて参りました。四肢の悪性腫瘍の治療といえば切・離断術が主流であった時代から患肢温存術が中心の今日までの治療の進歩をつぶさに見て参りましたが、患肢機能は完全に戻るわけではありません。今後は、急性期医療のみならず、リハビリテーションへの関わりを通じて患者さんの機能回復のお手伝いをしたいと考えております。平成23年4月から現在のリハビリテーションセンターに異動し、障害のある方の治療に目を向けて参りました。ここで感じましたことは、自分のことが自分でできない方の多いことでもあります。様々な原因はあるかと思いますが、加齢に伴う全身の脆弱化が基礎にあることは間違いなく考えます。日本は男女ともに世界に冠たる長寿国であります。しかし、自立した生活を送ることのできる健康寿命は十分ではなく、もっと延伸すべきであると共に医療者が努力すべき課題であると考えております。今後、私は整形外科医の立場から当センターにてロコモ外来を開始してロコモティブシンドロームの普及と健康寿命の延伸に努めたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。

**三橋 尚志 京都大原記念病院**



この度近畿地方会幹事を拝命いたしました京都大原記念病院の三橋です。1982年京都府立医科大学卒業後、整形外科医として関連病院で手術を中心に治療を行い、主に運動器のリハビリテーションに関わってきましたが、1991年現在の病院着任後はリハビリテーション部長として脳血管系にも関わるようになりました。1993年にはリハビリテーション総合承認施設の取得、2000年には回復期リハビリテーション病棟の開設を行い、2004年からは回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の理事として主に教育、研修部門を担当して参りました。2001年から6年間は京都大原記念病院の院長、2007年以降は介護老人保健施設博寿苑の施設長として、回復期リハ、生活期リハおよびその連携を中心に活動しております。現在は一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会の常任理事・研修委員長として協会の運営および会員の教育、研修を担当しており、平成25年度の担当研修事業は全職種研修会10回、医師研修会2回、病棟管理者研修会1回、診療報酬改定説明会1回の開催を予定しております。これまでの経験を生かして近畿地方会の運営に微力ながら携わりますので、よろしくお願いいたします。